

「令和3年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【茨城県】

褒賞名	関東農政局長賞
候補者名	直井 清 <small>ナオイ キヨシ</small>
所在地	茨城県つくばみらい市
品種名及び作付面積	夢あおば 1.4ha
10a当たり収量	723kg/10a
地域の平均単収からの増収	180kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・家族経営(本人、妻、息子(兼業)の3名および期間雇用2名)により、水稻2haの水稻単作経営。3年前より、コシヒカリで乾田直播栽培(0.4ha)に取組み始めた。</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・R2年まではコシヒカリのみ。米価の低下に対応するため、R3年はコシヒカリに加え、飼料用米専用品種を導入し、経営の安定化を図った。JAの助言もあり、早生で耐倒伏性に優れる「夢あおば」を選択。これまでコシヒカリで行っていた乾田直播(0.4ha)は、「夢あおば」で実施するとともに、1ha分を移植で実施した。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組)</p> <p>①カメムシ類防除の徹底。近隣のドローン保有者に適期防除を依頼。 ②育苗期間を長めにし(約1ヶ月)、やや大苗かつ健苗育成に努めた。 ③移植時期は5月初旬。植付本数は5~6本/株にし、コシヒカリよりやや多めに設定。栽植密度は62株/坪。育苗箱の使用枚数は約18枚/10a。 ④生育状況を確認し、追肥は2回実施した。 ⑤分けつを促進するため、強い中干しは行わないようにした。 ⑥秋耕は荒起こしとし、収穫後早め実施した。JAから勧められたアヅミン(腐植酸約50%、20kg/10a)を施用した。</p> <p>○生産コスト削減等の取組効果について具体的に記載 ・低価格帯の肥料の活用。 ・自宅周辺に農地を集積しており、作業の効率化につながった。</p>

「令和3年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【埼玉県】

褒賞名	関東農政局長賞
候補者名	小久保 栄一
所在地	埼玉県深谷市
品種名及び作付面積	北陸193号 3.2ha
10a当たり収量	664kg/10a
地域の平均単収からの増収	191kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・家族経営(本人・妻) なお、新規就農者(地域への参入)3名を支援している。 ・経営面積は水稻5.8ha、小麦0.7haである。 ・6次産業(小麦を自家製粉したうどんを主とした飲食店)を農閑期に経営しているが、現在はコロナウイルスの影響により休業中である。</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・農研機構のwebページを見て、多収品種を取り入れ、2020年(現在2年目)から栽培を行っている。 ・多収品種の作付面積は3.2haである。 ・超多収という特性に惹かれ、品種を選択した。前年度収量実績は826kg/10aであったので、昨年に引き続き導入した。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・播種量は育苗箱1箱あたり、催芽もみで200ccの薄播きとした。10aあたり12～15箱使用し、疎植とした。 ・土づくりとして発酵鶏糞3t/10a、ケイカル200kg/10aを施用している。 ・水管理は、埼玉県の「彩のかがやき栽培暦」に沿って適切に実施している。 ・秋に稲わらを全量すき込み、耕深を毎年1～2cmずつ深くしている。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・モミ、フレコン出荷による省力化を行っている。育苗箱枚数も減らし、資材などの低コストにも努めている。 ・トラクターによる耕起碎土は1回、代かき1回、植え直しは行わない。</p>

「令和3年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【千葉県】

褒賞名	関東農政局長賞
候補者名	関根 勝敏 <small>セキネ カツトシ</small>
所在地	千葉県柏市
品種名及び作付面積	アキヒカリ:約2.5ha、夢あおば:約4.1ha
10a当たり収量	674kg/10a
地域の平均単収からの増収	157kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・水稲約9.4haと露地野菜約4.2haの複合経営 ・主食用米(コシヒカリ)約2.7ha, 飼料用米(アキヒカリ)約2.5ha, 飼料用米(夢あおば)約4.1ha</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・アキヒカリは主食用米や夢あおばと収穫時期が異なるため, 作業の分散を図れることから, 栽培を開始。 ・夢あおばは, 主食用米やアキヒカリの後に収穫することから, 作業の分散が図れると同時に, 立毛乾燥が進み, 乾燥機の稼働時間短縮もできることから, コスト低減につながっている。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・移植と同時に基肥施肥, 除草剤の散布を行っている。 ・生育に合わせた細やかな水管理, 圃場周りの管理を行っている。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・自身で乾燥・調製し, フレコン出荷をすることにより, 出荷作業の省力化に取り組んでいる。</p>